



2015年度
都市史学会
大会
東京

世界の都市の多くは、海や川の水辺に立地し、舟運による流通・経済の活動を背景に富を築き、独自の風景や華やかな文化を育んだ。だが、近代という時代は、陸の発想による国土と都市の開発を推し進め、川や掘割を埋め暗渠にし、また美しい海岸線を埋め立てて工業・湾港ゾーンとして開発してきた。いまここで、歴史の観点から水の都市の価値を見直し、効率と機能性を追求してエネルギーを大量消費してきた陸の論理を乗り越え、海から、そして川から都市を捉え直して、自然のもつ豊かさを取り戻す発想の転換、そのための基盤となる都市史研究が強く求められている。一方、これまで世界中のさまざまな地域や時代のいわゆる（水都）を対象とした都市史研究には多くの蓄積がある。だが、それらは個々に別々の展開を見せてきた事実もあるだろう。本シンポジウムは、そうした背景をふまえ、まずは江戸東京を例に、水都を軸に多様な分野を統合しうる学際的な観点に立つて、都市史としての（水都史）を新たに提唱し、その可能性を探っていきたい。

シンポジウム

水都史

2015年12月12日 土 13:00—16:30 法政大学市ヶ谷田町校舎5階マルチメディアホール

研究発表 司会=高道昌志 (法政大学)

都市史学会総会

記念講演=日本における都市形成史の特質 | 五味文彦 (放送大学) 【15:00開演】

司会=高橋慎一郎 (東京大学) 終了後、17:30より屋形船懇親会を開催します (事前先着順予約制)

2015年12月13日 日 10:00—17:30 法政大学市ヶ谷田町校舎5階マルチメディアホール

シンポジウム=水都史 司会=稲益祐太 (法政大学)

特別講演 ヴェネツィア—水と食文化 | ルドヴィカ・ガレアッツォ (ヴェネツィア建築大学)

基調講演 水都史から見たヴェネツィアと東京の比較論 | 陣内秀信 (法政大学)

江戸の海辺と川辺 | 吉田伸之 (飯田市歴史研究所)

日本橋から見た水都の構造 | 伊藤裕久 (東京理科大学)

水辺から見た中・近世の品川 | 柘植信行 (品川区品川歴史館)

江戸の水辺の埋め立てと形成 | 仲光克顕 (中央区教育委員会)

広重の江戸名所絵に見る水辺の景 | 大久保純一 (国立歴史民俗博物館)

お問い合わせ=2015年度都市史学会大会実行委員会 convention2015@suth.jp ファクシミリ 03-5228-1405

102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学デザイン工学部高村雅彦研究室気付 <http://suth.jp>

12日の総会以外是非会員の方もご参加いただけます。なお、両日共通の参加費として会員の方からは2,000円、非会員の方からは3,000円を頂戴いたします。



法政大学市ヶ谷田町校舎
162-0843 新宿区市ヶ谷田町2-33
JR総武線・都営新宿線市ヶ谷駅より徒歩7分、東京メトロ有楽町線・南北線同駅5番出口より徒歩3分